

# 体育科学習指導案

平成30年11月30日（金）第3校時（体育館）2年3組

I 単 元 てつぼうランド

II 考 察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

①知識及び技能

跳び上がりや跳び下り，ふとん干し振りやこもり振り，足抜き回りの行い方や動き

②思考力，判断力，表現力等

てつぼうランドで遊び方を工夫するとともに，よい動きを友達に伝える力

③学びに向かう力，人間性等

てつぼうランドの楽しさや喜びに触れ，順番やきまりを守り，友達と仲良く，進んで運動に取り組む態度

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

E 器械・器具を使つての運動遊び

- (1) 次の運動遊びの楽しさに触れ，その行い方を知るとともに，その動きを身に付けること。  
ウ 鉄棒を使った運動遊びでは，支持しての揺れや上がり下り，ぶら下がりや易しい回転をすること。
- (2) 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに，考えたことを友達に伝えること。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み，順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり，場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。

(3) 本単元の学習とその価値

本単元は，「てつぼうランド」で，遊び方を工夫し，跳び上がりや跳び下り，ふとん干し振りやこもり振り，足抜き回りに取り組む学習である。その価値は以下の通りである。

鉄棒を使った運動遊びは，手，腹，膝で体を支持してバランスを取ることや揺れること，手や足でのぶら下がり逆さの姿勢になること，前に体を倒して回ることや，体を丸めて回る易しい回転をすることといった日常生活の中では味わえない感覚を鉄棒を介して，経験をすることに楽しさがある。また，鉄棒を用いていろいろな動きに取り組む中で簡単な遊び方を工夫したり，新しい動きを見付けたり，動きに取り組む中で見付けたコツを伝え合ったりすることで，動きの高まりや変化を楽しむことができる。

鉄棒を使った運動遊びの教材化にあたり，動きに合った遊び方選べるようにし，競争型・シンクロ型・組み合わせ型の3種類を提示していく。競争型では，より遠くへ跳ぶ，より早く回るなどを友達と競い合いながら繰り返し運動に取り組むことができる。具体例として跳び下りの距離を競うこと，前回りの回数を限られた時間の中でより多くできるようにすることを示す。シンクロ型では，動きをそろえようとする中で，友達の動きをよく見て，合わせるスピードを変えた

り、動きをそろえる楽しさを味わえたりできる。具体例としてペアで動きを合わせて足抜き回りをすること、ふとん干し振りでは振りの幅を友達と合わせることを示す。組み合わせ型では、動きをつなげることで2つに動きの習熟を図ることができる。具体例として足抜き回りにからこうもり振りに動きをつなげていくことといった動きを示す。また、これらの遊びに取り組む際には、遊び方を工夫していくことができるように「遊びの視点」を提示し、子ども達が遊び方を工夫し、自己やチームに合った楽しみ方を見つけていくことができる。

こうして身に付けた跳び上がりや跳び下り、ふとん干し振りやこうもり振り、足抜き回りの基本的な動きが、今後学習していく中学年の鉄棒運動の動きへとつながっていく。

#### (4) 今後の学習

ここでの学習は、3年「鉄棒運動」で、補助逆上がり、だるま回りの行い方を知り、自己の能力に適した支持系の基本的な技をすることやそれらの発展技に取り組んだり、技を繰り返したり組み合わせたりすることの学習へと発展していく。

#### 2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、2年「跳び箱を使った運動遊び」において、跳び箱に片足で踏み切って跳び乗ったり、ジャンプして跳び降りたり、支持でまたぎ乗り・またぎ下り、支持で跳び乗り・跳び下りをしたりする学習をしてきた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① 跳び箱を使った運動遊びの行い方を知り、跳び箱に片足で踏み切って跳び乗ったり、ジャンプして跳び降りたり、支持でまたぎ乗り・またぎ下り、支持で跳び乗り・跳び下りをしたりする動きができるようになってきている。このような子どもたちが鉄棒を使った運動遊びの行い方を知り、跳び上がりや跳び下り、ふとん干し振りやこうもり振り、足抜き回りができるように、「遊びの視点」を提示し、話し合う場を設定する。
- ② 跳び箱を使った運動遊びのよい動きを友達に伝え、跳び箱の越え方や、跳び箱を下りるときの着地の仕方を選ぶことができるようになってきている。このような子どもたちが、鉄棒を使った運動遊びでよい動きを友達に伝えたり、跳び上がりや跳び下り、ふとん干し振りやこうもり振り、足抜き回りの動きで遊び方を選ぶことができるように、模造紙を提示する。
- ③ 跳び箱を使った運動遊びに進んで仲良く取り組み、場や器械・器具の安全に気を付けることができるようになってきている。このような子どもたちが、自分たちの場や器械・器具の安全に気を付け、互いに補助をして進んで仲良く取り組むことができるように体格に近い4・5人のグループを編制する。

### Ⅲ 目標及び評価規準

#### Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

#### Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい グループで遊び方を選び、動作や言葉を用いて互いの動きを合わせる遊びを通して、足抜き回りができる。
- 2 準備 「つかむ」過程で作成した模造紙
- 3 本時想定した躍動をする子どもの姿

足抜き回りに取り組む中で、子どもが、動きの合わせ方について、動作や言葉で解決策を伝えている。

4 展 開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 めあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今日は足抜き回りをやるんだな。ふとん干し振りの時みたいに動きを合わせると楽しくできそうだな。</li> </ul>	<p><b>1</b>学習への必要感を高めることができるように、「つかむ」過程で作成した模造紙を提示し、本時でできるようになりたいことややってみたい遊び方を問いかける。</p>
<p>めあて 足ぬきまわりで、友達と動きをそろえられるようにしよう</p>	
<p>2 動きのポイントを確認し、足抜き回りに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ももをお腹につけて回ると体が丸くなって回りやすいな。</li> <li>途中で勢いがなくなってしまうので友達に背中を支えてもらおう。</li> </ul> <p>3 足抜き回り遊びに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>声を出して合わせていくとうまくいきそうだな。友達にそろっているかどうか横から見てもらおう。</li> <li>ペアを変えてやってみよう。声を出せば動きは合うだろう。</li> </ul> <p>4 グループで選んだ足抜き回り遊びに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>動きは合っているから、連続でやってみよう。始めから最後まで動きを合わせてやっていきたいから声を出すタイミングは足を着いたときでいいかな。</li> <li>連続でやっても動きが合ってきたな。先生にも、声を出しているタイミングがよいと褒めてもらえたよ。次はスピードをもう少し速くしてみよう。</li> </ul> <p>5 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループの友達と連続で足抜き回りができて楽しかったな。なんか動きも前よりうまくなってきたな。</li> <li>次はこうもりの遊びか。逆さで体を動かすから、この遊びのやり方も工夫したいな。</li> </ul>	<p>○足抜き回りのポイントに気付くことができるように、視点「目線」「ももの位置」について問いかける。</p> <p>○グループで安全に足抜き回りの補助ができるように、補助をする位置と補助の仕方を提示する。</p> <p><b>2</b>グループの課題に応じて解決方法を見直して取り組むことができるように、「動きの合わせ方」という視点を提示する。</p> <p>○グループの誰とでも動きのタイミングを合わせることができるよう、ペアを変えて取り組むよう促す。</p> <p><b>3</b>グループで選んだ遊び方の解決方法を見直すことができるように、グループで話し合う場を設定する。</p> <p>○グループで選んだ遊び方のよさに気付くことができるように、出てきた遊び方を取り上げて称賛していく。</p> <div data-bbox="799 1514 1394 1666" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">— 評価項目 —</p> <p>足抜き回りの動きを合わせるための解決策を動作や言葉で伝えている。 &lt;行動②&gt;</p> </div> <p>○足抜き回りに取り組むよさを振り返れるように、振り返りの視点「できるようになった動き」を提示する。</p> <p>○次時への見通しがもてるように模造紙を提示し、次時はこうもりふりの遊びを考えていくことを伝える。</p>



指導と評価の計画（全7時間）

目標	みんなで仲よくし、鉄棒を使った遊び方を工夫して、跳び上がりや跳び下り、ふとん干し振りやこうもり振り、足抜き回りに挑戦したりして、鉄棒遊びができる。			
評価 規準	①知識・技能)鉄棒を使って跳び上がりや跳び下り、ふとん干し振りやこうもり振り、足抜き回りをすることができる。 ②思考・判断・表現)鉄棒での遊び方を選んだり、動きの工夫を伝えたりしている。 ③主体的な学習取組態度)安全に気を付けながら、きまりを守って仲よく鉄棒遊びをしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
つか か む	1	○試しの鉄棒ゲームをしたり、基本の遊び調べに取り組む。 ・共通のめあて 「みんなで仲よくしながら、安全に取り組む、新しい動きや動き 考え、鉄棒遊びを楽しもう」	○学習への見通しをもつことができるように、試しの鉄棒遊びに取り組む際に、「できるようになりたい動き」「できそうな遊び方の工夫」の視点を提示する	◇試しの鉄棒遊びに取り組んで得た感覚や感想から「できるようになりたい動き」「できそうな遊び方の工夫」を記述している。 <学習プリント③>
追 求 す る	1	○跳び上がり・跳び下りの遊びに取り組む。	○跳び上がり、跳び下りの動きができるように、着地点に印を置き、何度も挑戦できる場を設定する。	◇鉄棒に跳び上がったたり、跳び下りたりすることができる。 <行動①>
	1	○ふとん干し振りの遊びに取り組む。	○ふとん干し振りの動きのポイントを見付けることができるように、「体の振るところ」「向き」の視点を提示する。	◇ふとん干し振りの遊びで体を振るポイント「体の振るところ」「向き」を発言したり、記述したりしている。 <学習プリント②>
	1	○足抜き回りの遊びに取り組む。	○足抜き回りで友だちと動きの合わせて回転できるように、動きを横から見る観察者を設定する。	◇足抜き回りの動きを合わせるための解決策を動作や言葉で伝えている。 <行動②>
	1	○こうもり振りの遊びに取り組む。	○こうもり振りの動きができるように、観察者の子の手にタッチをする場を設定する。	◇こうもり振りができる。 <行動①>
	1	○グループや個人で選んだ遊び方に取り組む。	○遊び方を選ぶことができるように、複数の遊び方が書かれた模造紙を掲示する。	◇遊び方を選んで取り組み、解決策を動作や言葉で伝えている。 <行動②>
ま と め る	1	○お気に入りの遊びを発表し合い、学習のまとめをする。	○遊び方を選べたことや、新しい動きができるようになったことを振り返ることができるように、視点「できるようになった動き」「よかったれんしゅうほうほうやアドバイス」「じぶんや友だちのがんばっていたこと」を提示する。	◇視点を基に自分や友達のよさを記述している。 <学習プリント③>